

果樹カメムシに対する合成ピレスロイド系薬剤とネオニコチノイド系薬剤の防除効果

本年は中予地方を中心にチャバネカメムシの越冬量が多く、春から夏にかけて果樹園への飛来が多く確認され、特に落葉果樹で被害が見られた。

そこで、温州みかんにおける合成ピレスロイド系薬剤6剤、ネオニコチノイド系薬剤7剤の防除効果を紹介する。



ももを吸汁するクダマカメムシ



みかんを吸汁するチャバネカメムシ

同じ系統の薬剤でも種類によって防除効果に差が見られた。

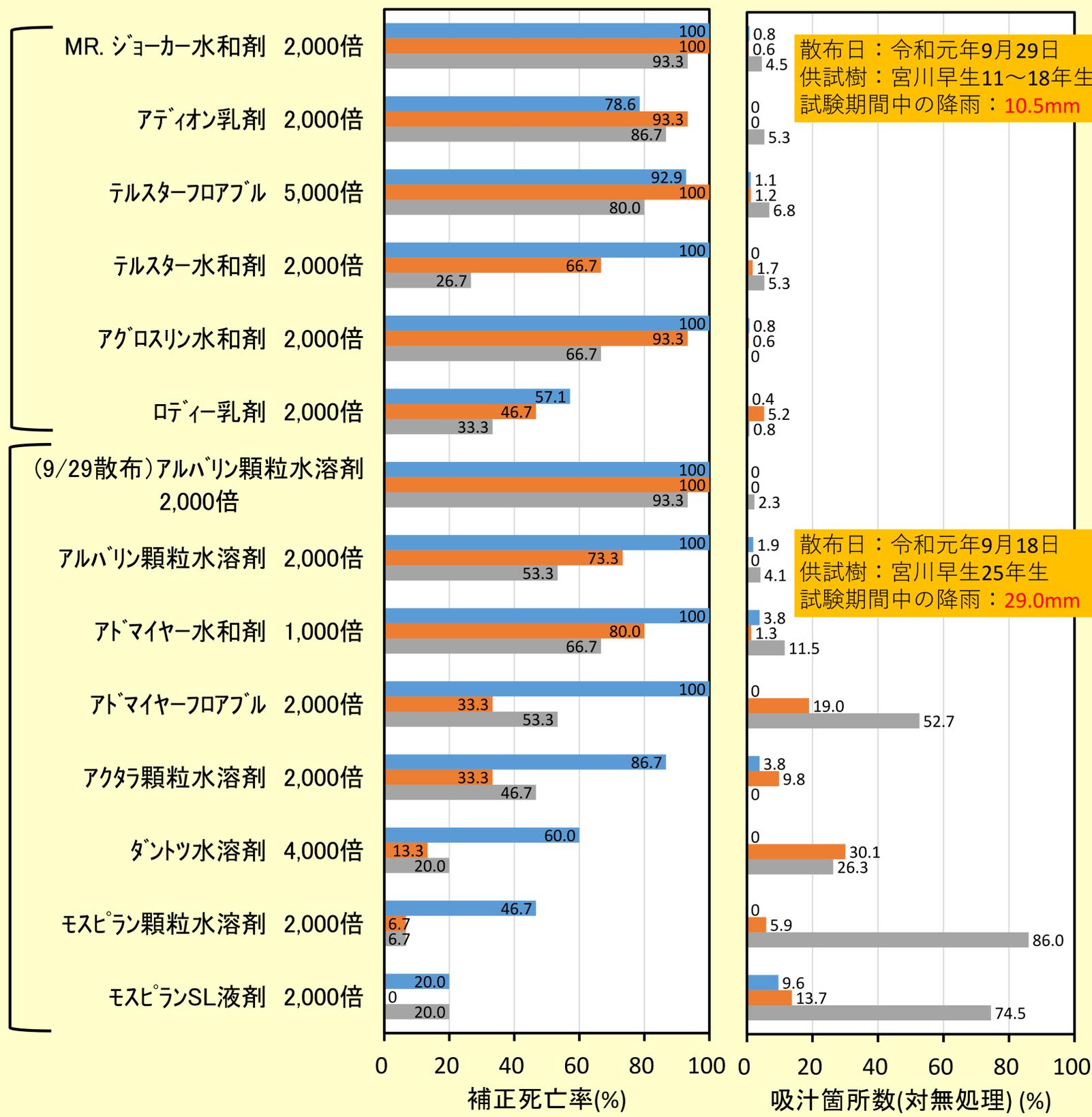
合成ピレスロイド系薬剤は、殺虫効果には差があったが、いずれの薬剤も吸汁は抑えられた。**MR. ジョーカー水和剤**が特に防除効果が高かった。

ネオニコチノイド系薬剤は、散布2日後と4日後に雨の影響を受けたものの、**アルバリン顆粒水和剤**は防除効果が高かった。

合成ピレスロイド系薬剤

ネオニコチノイド系薬剤

■ 散布1日後 ■ 散布4日後 ■ 散布7日後



散布日：令和元年9月29日
供試樹：宮川早生11~18年生
試験期間中の降雨：10.5mm

散布日：令和元年9月18日
供試樹：宮川早生25年生
試験期間中の降雨：29.0mm

補正死亡率(%) 吸汁箇所数(対無処理)(%)